

2025年度 総合型選抜 試験問題

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。
※解答開始の合図の直後に必ず記入してください。
 - ① 氏名欄
 - ② 受験番号欄
- 4 解答は、黒の鉛筆またはシャープペンシルで、読みやすい字で濃くはっきりと解答用紙に記入してください。問題冊子の余白部分は下書き等に使用しても構いません。
- 5 試験時間は 90 分です。
- 6 試験終了後、問題冊子は回収しますので持ち帰らないでください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「インフォームド・コンセント」^(注1)と「パターンリズム」^(注2)という2つの対と並んで知っておくべきなのが、「生命の尊厳」と「生命の質」という2つの対になる判断原理である。

「生命の尊厳」は英語の Sanctity of Life の訳で、SOLと略される。Sanctity は「尊厳」と訳すより、「神聖さ」と訳した方がしっくりくるが、「尊厳」が定訳になっている。意味は文字通り、生命とは神聖なものであり、絶対に尊重しなければならない価値を持つということである。

この原理は人間の誰もが反対しない考えであり、特に医療従事者にとっては、自明の前提、当然の判断原理としなければならないものである。患者にとっても、生命を第一に尊重すべきものと考えてくれない医療者は願い下げであろう。

ところが、この誰もが反対しないと思われる原理が、パターンリズムの立場を支える根拠ともなっている。

医療者は「生命の尊厳」の立場に立って、患者の生命維持と健康回復のために力を尽くす義務がある。ところで、救命とは、命を守ること、生かし続けることである。その際、患者がどのような状態で生きていることが幸せなのか、ということを経験者は問わない、また、問うこともできない。それは患者本人にしか分からないことであり、医療者が自分個人の考え方に基づいて判断すべきではないからである。だから、医療者が患者を生かし続けるとは、言ってしまうえば呼吸と心拍を維持することに行きつく。「生命の尊厳」の立場を貫いているうちに、いつしか、より長く生かすこと、「延命すること」が治療の唯一最大の目的であって、医療者の義務であり、患者にとって最高の善であるということになってしまうのである。したがって延命という目的を達成するためには、患者本人の意志や人生観を犠牲にしてもやむを得ないとされることもありうる。

そのような態度でうまくいくことも確かにある。しかし現代の高度な医療の世界では、治療することが個人の人生の目的と関係なく、ただ無残な状態で呼吸と心拍を維持しているにすぎないというありさまになってしまうこともある。「生命の尊厳」という当然の立場に立つことが、いつしか患者にとって幸福であるとは言えない「延命主義」へと転化してしまうわけである。

「生命の尊厳」のこうした一面性を正すために主張されるようになったもう一つの原理が、「生命の質」である。これは英語の Quality of Life の訳語で QOL と略される。

生命維持と健康回復という目的に邁進^{まいしん}することは間違いないが、そのとき「なんのために生きるのか」という問いを忘れて、ただ生かすことだけが絶対目的になってしまったとき、それは「生命の質」を無視するものではないかという疑問が出てきたのである。近代社会の認めるところでは、「人生いかに生きるか」は、その人が自分で決定することができることである。そうであるとすれば、人が病気にかけたり怪我^{けが}をしたりしたとき、どのような治療を選択して病気や怪我・障害とつきあっていくかという選択も、個人の自己決定権に属することのはずである。そうすると医者側の「生命の尊厳」を原理として患者の「延命」を唯一最高の善と見なして介入してくることは、必ずしも正しくないということになる。ここに、SOLに対してQOLを優先させて考える立場が生まれる。これは当然^(注3)IC型医療に結びつく。

ところで、Life という英語を訳し分ければ、QOL も「生命の質」と言うばかりでなく、「生活の質」(特に医療の世界ではこの訳語が好まれる)、「人生の質」といういくつかのニュアンスの異なる日本語に変化する。上に述べた「いかに生きるか」という問題に関わるQOLは「人生の質」という主観的な意味でのQOLだが、他方、人間として満足できる生活機能が保たれている(自力で呼吸ができる、口

からものを食べることができる、自分で排泄^{はいせつ}できる、など」という客観的な意味でのQOLもある。前者は主に患者が、後者は主に医療者が使う意味である。

SOLとQOLはインフォームド・コンセントとパターンリズムが良い、悪いという意味で区別されているわけではないように、どちらの方が考え方として優れているということはできない。ただ、インフォームド・コンセントとパターンリズムと同じように、この2つの概念はときに補い合い、ときに対立しあいながら、現代の医療思想を形作っているのである。

（黒崎剛「患者の権利と『インフォームド・コンセント』」

黒崎剛・野村俊明『生命倫理の教科書―何が問題なのか―』

（注1）インフォームド・コンセント⇨患者が医療者から自分の病気の状態や、それに対する治療法、その長所・短所について説明を受け、十分理解したうえで、医療者の提示した治療法に同意を与えること。

（注2）パターンリズム⇨医師があたかも父親のように、子供としての患者の健康を監督し、命令する態度で診察する（医療の）ありかた。

（注3）IC型医療⇨インフォームド・コンセントに基づく医療。

問一 本文を二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 本文を読んで、医療において「生命の尊厳」と「生命の質」のどちらを重視すべきかについて、自分の考えを八〇〇字以内で述べなさい。